

A15c

## ビデオによる 2001 年獅子座流星群 2 点観測結果報告

田島 徹 (NASDA)、諸岡 嘉男 (NASDA)、野中 和明 (NASDA)、磯部 三 (国立天文台)

NASDA では、日本宇宙フォーラムが建設中のスペースガード施設を利用し、スペースデブリ等の観測を計画している。光学望遠鏡では国立天文台、レーダでは京都大学にご協力を頂き、デブリや小惑星の軌道決定等の研究を実施している。上記光学観測研究の一環として、流星（小惑星）の観測データを用いた位置測定方法の調査・検討を目的として、獅子座流星群の観測を行った。観測方法として2点からの同時観測を行い、流星の位置測定および輻射点計算を行った。観測機器はイメージインテンシファイア ( I I ) を用いた CCD カメラを用いており、広範囲を観測するため70度の視野角を持つ広角レンズを取り付けている。同時観測の結果11月19日3時台では10分間に50個前後の流星を確認しており、それらの位置測定および輻射点計算結果について報告する。